

DEC. 2011
©Kyoto City

vol. 30



9.9

仕事と生活の調和に
関する希望と現実

あなたの「真のワーク・ライフ・バランス」度はどれくらい?



まずは…チェックシートを使って、あなたご自身の日常を振り返ってみてください。



A (個人)	1	身の回りに親しい友人がいて、交流の機会がある。	はい	まあまあ	いいえ
	2	自己研鑽や趣味・娯楽、ボランティアの活動などの目的で、継続して学習している。	はい	まあまあ	いいえ
	3	仕事や趣味など、自分の持っている才能や知識、技量などが十分に発揮でき生きがいややりがいを感じることもある。	はい	まあまあ	いいえ
	4	自分の将来のライフプランについて考えたり学習したりする機会がある。	はい	まあまあ	いいえ
B (仕事)	5	自分またはパートナーが安定した仕事につくことなどにより、経済的に自立できている。	はい	まあまあ	いいえ
	6	仕事において、自分のライフスタイルやライフステージに応じた働き方ができていると感じている。	はい	まあまあ	いいえ
	7	働いている職場において、子育てや家族の介護に対する理解や支援が十分であると感ずる。	はい	まあまあ	いいえ
	8	仕事にやりがいや生きがいを感じている。	はい	まあまあ	いいえ
C (家族)	9	子育てや介護の負担を軽くしたり、仕事等と両立するためのサービスを利用できている。	はい	まあまあ	いいえ
	10	身の回りに、子育てや介護の悩みを相談できる人がいる。	はい	まあまあ	いいえ
	11	夫婦(家族)で家事や育児、介護を分担している。	はい	まあまあ	いいえ
	12	1週間のうち、同居する家族と5回以上夕食を一緒に食べている。または、離れて暮らしている家族や親族と、頻りに連絡を取り合っている。	はい	まあまあ	いいえ
D (地域)	13	住んでいる地域の自治会などのコミュニティ活動や、学校のPTA活動などについて知っている。	はい	まあまあ	いいえ
	14	過去1年の間に、地域の祭りや防犯・防災活動などのコミュニティ活動や、学校のPTA活動に参加した。	はい	まあまあ	いいえ
	15	困った時に頼れるご近所さんがいる。	はい	まあまあ	いいえ
	16	様々な市民活動やボランティア活動に自分の意思で参画している。	はい	まあまあ	いいえ

京都市では、「真のワーク・ライフ・バランス」に関する推進計画(仮称)素案を策定しました。皆様の御意見を募集しています。詳しくは、以下のホームページを御覧ください。

ホームページ http://www.city.kyoto.lg.jp/bunshi/soshiki/6-1-2-0-0_1.html

募集期間 平成23年11月8日(火)から平成23年12月15日(木)まで(必着)

募集方法 郵送、ファクシミリ送信、電子メール送信のいずれか(様式自由)

送付先 〒604-8571 京都市中京区寺町通御池上る上本能寺前町488番地

京都市文化市民局共同参画社会推進部男女共同参画推進課

Tel.075-222-3091 Fax.075-222-3223 E-mail.danjo@city.kyoto.jp

公益財団法人京都市男女共同参画推進協会 —— 企画・編集

〒604-8147 京都市中京区東洞院通六角下る御射山町262

Tel.075-212-7490 Fax.075-212-7460 <http://wings-kyoto.jp>

2011年12月京都市文化市民局共同参画社会推進部男女共同参画推進課発行 京都市印刷物番号234554号



大会当日はノーマイカーデー

今こそ必要なとき。 真のワーク・ライフ・バランス



9.9%

家庭生活を
優先したいと思う
40代男性の現実

平成23年版男女共同参画白書より

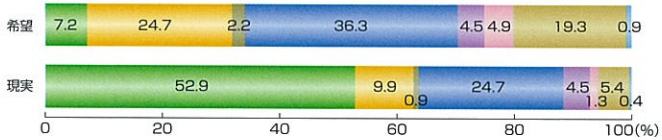
ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）。最近よく聞く言葉だという人も多いのではないだろうか。では、その内容とはどのようなものか、御存じですか。人生におけるさまざまな場面を想像してみてください。新入社員の時。子どもをを持ったとき。自己啓発が大切なとき。あるいは介護にたずさわることになったとき。そして、人には、それぞれの場面によって、今は仕事（ワーク）を充実させたい時期、家庭生活（ライフ）に重点を置きたい時期、地域活動やボランティア活動に関わってみたい時期など、そのときどきに感じた、いろいろな理想のバランスが存在するのではないだろうか。

「平成23年版男女共同参画白書」によると、たとえば40代男性のうち、今「家庭生活」を優先したいと考える人は全体の24.7%、しかし実際にそのように暮らしている人は全体のわずか9.9%となっています。希望と現実の間には、まだまだ大きなギャップが存在しているようです。もしライフステージにあわせて、ひとりひとりが

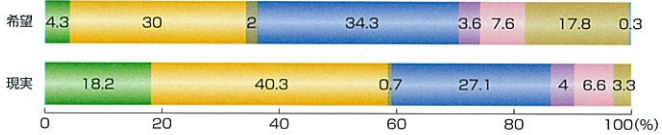
仕事と生活の調和に関する希望と現実

生活の中での「仕事」「家庭生活」「地域・個人の生活」（地域活動・学習・趣味・付き合い等）の優先度の希望と現実

男性(40歳～49歳)



女性(40歳～49歳)



※内閣府「男女共同参画社会に関する世論調査」(平成21年10月)

が、仕事と生活の配分を最適のバランスで選択できたら、女性も男性も安心して働き続けることができ、充実した人生となることでしょう。

平成22年度に策定した第4次京都市男女共同参画計画（きょうと男女共同参画推進プラン）では、市民ひとりひとりが、やりがいや充実感を感じながら働き、仕事上の責任を果たすとともに、仕事や家庭生活、社会貢献などにおいて、生きがいと充実感を得て人生が送れる「真のワーク・ライフ・バランス」の推進を重点分野とし、施策を進めています。

しかし、その実現には、市民や行政だけでなく企業の協力も不可欠です。企業によるワーク・ライフ・バランスの実践が実現すると、個人の生活は充実し、就業意欲の向上を招きます。企業にとっても優秀な人材の確保、収益の安定などにつながり、これらは不況を乗り切る切り札ともなり得ます。

今、震災やさまざまな災害により、個人においては、地域や家族の絆が再認識され

ています。企業も節電対策や災害時のリスク管理に取り組みなど、社会環境も変化してきています。こういった企業努力のなかでは、在宅勤務も見直されてきました。個人にとっては、通勤時間がなくなる分、家族と過ごす時間が変化する方もあるでしょう。フレックスタイムや、サマータймも効果をあげています。企業だけでなく、私たちひとりひとりに、今が大きな転機です。今一度、家族や友人、地域でも一緒にくらす人たちとのつながりを再認識し、自分に求められる役割を考えてみましょう。それによって、単なる「生活時間のバランス」を超えた「心の調和」を得ることができのではないのでしょうか。今こそ、「真のワーク・ライフ・バランス」を実現できる社会をめざしませんか。

※自分を振り返る様々な「つながり」をもう一度見直し、今ある「つながり」を深めたり、新たに「つながり」を築いたりして、その中で求められる役割や責任を担うことにより「生活時間のバランス」を超えた「心の調和」を得て、より充実した人生を送る「つながり」の考え方を提案するものです。

